

12 / 1 (月) のんびり
12 / 2 (火) 授業
12 / 3 (水) 在宅
12 / 4 (木) 日本学総合講座
12 / 5 (金) 在宅
12 / 6 (土) はしがき
12 / 7 (日) 古文物市
12 / 8 (月) 在宅
12 / 9 (火) 修士論文指南
12 / 10 (水) 修士論文試問会打ち合わせ
12 / 11 (木) 修士論文試問会
12 / 12 (金) 修士論文試問会
12 / 13 (土) レジューメ
12 / 14 (日) 在室
12 / 15 (月) 濱先生送別会
12 / 16 (火) 授業
12 / 17 (水) 濱先生帰国
12 / 18 (木) 天津へ
12 / 19 (金) 南開大学講義
12 / 20 (土) 天津社会科学院
12 / 21 (日) 在宅
12 / 22 (月) 在宅
12 / 23 (火) 授業
12 / 24 (水) 在宅
12 / 25 (木) 日本学総合講座
12 / 26 (金) 在宅
12 / 27 (土) 在宅
12 / 28 (日) 在宅
12 / 29 (月) 琉璃廠
12 / 30 (火) 授業と会食
12 / 31 (水) 国家図書館法帖展示

12 / 1 (月)

原稿を読み直していて散歩は省略。9:30 の車でセンターへ。昭和財政史 20 巻でドッジの発言を確認してから、完成原稿と業績目録を澤山さんに送る。写真は来年でよからう。

図書室で日経を読む。足利銀行の一時国有化は意外な展開だ。北海道拓殖銀行で懲りたかと思っただが、とうとう地銀整理に手を着けたようだ。やりはじめたら足銀だけでは済まないだろう。落とし先が見えているならまだしもだが。

昼は、炒飯。

新聞は、2004 年の経済計画の基本線が決定されたことをトップで報じている。雇用と農業部門の改善が大きな課題とのことだが、どのような政策が展開されるのかは未定らしい。遼寧省副知事と深セン市副市長が汚職で解任処罰された記事もある。Liu は瀋陽副市長から省副知事になった人物だが、汚職容疑で解任された。汚職の実態はまだ報道されていない。

Wang 深セン副市長は、83 万元 + 12.3 万香港ドル + 3000US ドルの賄賂を 1991 年から 2000 年までに取ったことで、20 年の禁固刑が言い渡された。Wang は、婿に深セン市の土地を法外に安く払い下げた罪も犯したとのこと。こういう話には限りがあるのだろうか？

田舎に出された犬が帰ってきたがまた田舎送りになる話。賓館の近くの団地に迷い込んだ犬が、みんなに飼われていたが、愛犬への被害を心配した住人の告発で田舎に送られた。北京では、市街地での中型犬以上の犬の飼育は禁止されているからだ。ところが、54日後に、彼は、やせ衰えて泥だらけになりながら団地に帰ってきた。みんなは驚いて介護したが、健康を回復すればまた田舎送りになるのは避けられないとのこと。中大型犬は、人間を襲うといけないから飼育禁止になっているそうだが、犬にたいする認識がすこしおかしいのではないかと感じる。躡けることをしなければ、小型犬でも人を噛む。

夕方、恵子と双安商場へ出かける。サイバー大厦の前では、鉄筋を組んでクリスマスツリーを作っている。プラスチックの縦の枝を取り付けるらしい。森から樹を切り出さない配慮かもしれない。クリスマスは、中国語では、茎の草冠を取った字、つまり聖、と「誕」の2字で表されている。

火鍋をやるということになって、フィッシュボール2種、生エビ、白菜、大根と袋入りのタレを買う。白ワインも50元のを1本。タレは、鍋に入れる白色の液体の素を想定していたが、ツケダレだった。いささかきつすぎて使用不能。

2年生へのアドバイスを文章化した。論文の書き方調になったが、多少は役に立つだろう。杉浦くんの原稿が出版会に届いた。全員集合になって良かった。

12/2(火)

6時に7時のNHKニュースをみる。外は真っ暗。7時過ぎて明るくなったが、散歩に行っていると時間が無くなりそうなので、メールを書く。概説の増刷の時に修正すべき点を東大出版会に送る。りそなへの公的資金注入による実質的国有化、あおぞら銀行のサーベラス傘下入りなど。

9:30の車でセンターへ。2年生の修士論文中間報告についてのコメントをする。一般論は、ハウツー論、個別的には、テーマの広がりなど。アイデンティティというキーワードが共通しているので、すこし話す。アイデンティティの多面性を解説して、どの面に注目するかを考えることが大切とっておく。じつは、この概念、まだよく分かっていない。杉浦くんのエッセイは、欠落から生じる充足への欲望、他者の欲望を欲望する欲望、その欲望が満たされることの不可能を華麗に説いている。アイデンティティとは、満たされることのない欲望を抱き続ける行為なのかとも思う。欲望が消滅したら、個人のアイデンティティは、淡雪のように溶けるだろうから。やはり、来年は、欲望論を検討してみよう。

来春、日本に留学してから社会調査をして修論を仕上げるのだが、まだ、調査対象を決めることができていない。少し具体的な提案をしておいた。

タクシーで帰って、うどんの昼食。持ってきた乾麺の消化策。

新聞トップは、シュレーダー首相訪中の記事。北京・上海新幹線を射程に入れての訪中だ。フォルクスワーゲンなどで先行しているドイツは、さらなる関係強化を進めている。それにひき比べて日本政府のもたつき振りは！

北京大学の葉教授にメールで、中文エッセイをめぐって討論会を開くことを提案した。論文に手間取って、英語のレクチュアを準備する時間が無くなったから、苦肉の策。中国農業大学の李教授には、2年生のLiYさんと会ってくださるようお願いのメール。

夕食は、鶏の唐揚げ、カボチャの煮付け、茶碗蒸し。

加藤氏が馬場氏に会ってくれたので、出版会にメールで新提案を送った。

12/3(水)

朝、双楡樹早市へ。ブロッコリ、搾菜、サヤインゲン、サヤエンドウ、ミカン、うどん、卵を購入。元が変わったものと注文したので、道端の引き店で、鶏卵餅、燕山ホテル前のパン屋でクロワッサン、くるみパン、チョココロネを仕入れる。鶏卵餅は、生地を鉄板で焼いて中央を開いて溶き卵1個・葱を入れてさらに焼いて、たれをつける。まあまあ美味しい。クロワッサンは少し甘いが出来る。チョココロネには、ケーキの上に乗せるようなしっかりしたチョコレートクリームが下までぎっしり詰まっている。ミカンは、小型でオレンジ色が濃い新顔。いかにも美味しそうだったが、食べると酸味が強く、期待はずれ。

搾菜は、生のモノで、これまで根かと思っていたが、茎の下部であることが判明。
新聞トップは私企業部門の強化という見出し。私企業経営者の共産党入党承認で政治的立場が強化されたし、来年の憲法改正で私有権保護が強化されると、中国経済における私企業部門はますます重要性を増すだろうと書いている。ますます資本主義に近づくわけだ。
ペットを飼うと公的扶助がもらえない話。貧困者への公的扶助は、月額数十元から 300 元が支給されているが、南京、上海、瀋陽、ハルビンなどでは、ペットを飼う貧困者には公的扶助を打ち切る方針が出された。たとえば、瀋陽では、ペット犬を飼うには初年度 1000 元、2 年目以降 500 元の登録料がかかるのだから、犬のために扶助料は出せないという理屈。登録しない飼い犬もいて、これはヤミ犬 Black pets と呼ばれる。この措置をめぐって、貧しい人の方が動物を愛したり、友としてのペットを必要とするのだから、打ち切りは酷だなど議論が沸騰しているようだ。日本でも、クーラーがあると生活保護が打ち切られるという措置が問題化したことがあった。いまはどうなっているのだろう。

昼は、チャー蕎麦。うどんの食べ方として定着した。

出版会との話し合いがついたので、各論文の位置づけを「はしがき」で書くことになった。

下手に位置づけると「はじかき」になりそうだから、丁寧に読み直す。

夕食は、鶏肉野菜炒め、サヤエンドウ卵綴じ、搾菜薄切り炒めなど。搾菜は、少し苦みがある。やはり漬け物向きだ。

12 / 4 (木)

恵子が炊飯器で焼いたパンを食べる。粉がちがうのと炊飯器の電源が自動的に切れるので、上手くできていない。薄い緑色がつくのはどうしてだろう。

7:40 のバスでセンターへ。元がホームページをアップデートしようとするがうまくサーバーに入れない。1・2 年生にグローバリゼーションを話す。19 世紀の第 1 次グローバリゼーションのあと、帝国形成、東西対立、南北格差と国家間の壁が高くなった時代を経て、1970 年代以降、第 2 次全球化が進むという筋。福祉国家からの後退に関して、日本は福祉国家かとの質問。医療保険は充実しているが、年金制度はレベルが低く、児童手当も不十分と答える。中国では年金率は基本給部分の 100%保証が普通だから、将来に問題があり、日本企業も進出の際に将来の負担を考えるとためらうことがあると、元が発言。

送迎車で帰宅。昼食は、グラタンとワンタン。

午後、センターへ戻って、樋口浩造先生の日本学総合講座「戦後日本文化論と文化研究ナショナリズムへの向かい方」を聴講。文化を「差別化の装置」と見る観点から、戦後の日本文化論の動向を紹介。敗戦直後の否定的特殊日本文化論から、高度成長期の肯定的特殊日本文化論、さらに、自由主義史観、それへの文化相対主義的批判などを語り、梅棹忠夫が『文明の生態史観』で「乾燥地帯は悪魔の巣」「イスラム社会が暴力の源泉」など問題発言をしていることを指摘。戦後の代表的知性、丸山真男にしても、アジアへの視座が欠ける発言をしているとも。なかなか鋭い指摘。ナショナリズムを越える姿勢、観点が必要と問題提起。

院生の質問も活発で良かった。レノンのイマジンを引きながら、ナショナリズムの壁を溶かす視点、文化を経済・政治・社会と分節化する方法を質問。

夕食は、ハンバーグ。飲めない甘口ワインを入れてなかなかのソースができた。

新聞は、外国為替取扱いに柔軟性をという記事がトップ。人民元の引き上げは肯定していないが、銀行間の決済制度を改革して外国為替市場の整備が必要と論じる国家外国為替管理局長のウェブサイト発言を紹介している。人民元の安定を前提とする制度改革だから、今すぐと言うことではない。いろいろなジェスチャーを見せている感じだ。

旅行が解禁されて最初の観光団 34 人が蒸発した話。ハンガリー、キューバ、パキスタン、クロアチアへの旅行が 11 月から許可されたので、上海からのグループがクロアチアへ向かったが、帰国前日に全員がホテルに荷物を残したまま行方不明になった。悪名高いバルカンルートでヨーロッパに向かったらしい。

セックス観の変化という記事。婚前交渉について 11 都市で未婚男女を調査した結果、婚

前交渉は良くないとする若者は 34.7%で、男性の 50%は結婚相手に処女性を求めない。キス・抱擁の経験者は 42%で、そのうち 30%は性交渉まで進み、7%は同棲している。1997年の調査では、既婚者の 40%は、結婚前にはキスもしたことがないと答え、1987年以降に結婚したカップルは、17.9%しか婚前交渉を経験していない。婚前交渉を容認する若者は確実に増えつつあるとの報告。これは愛情関係の存在を前提としての話だが、この傾向は、性の自由化へも繋がりがねない。性の商品化も、日本人集団買春事件で明るみに出ている。市場経済は、欲望開放社会を導くのだから、はたして、社会主義市場経済が、この問題に上手く対応できるのだろうか。

12 / 5 (金)

朝は双楡樹早市に買だし。ザボン(大7元)、青菜(白菜のこどものような下部が太い菜)、ブロッコリ、長ナス、卵、餃子皮用の小麦粉団子を買う。隣のスーパーが開いたので、挽肉。朝食用に、焼き包子、焼き餅を3箇所仕入れる。あんこ入りかと思ったものはただの焼き餅、はじめての店で買うのは難しい。焼き包子は、蒸したものを油で焼くのだが、食感がすこし変わるところが好まれるのだろうか。余りものの利用法というわけではないようだから。

フロントで新聞を受け取りがてら、水を頼んできたら、すぐに配達された。1瓶15円で、2、3日もつ。水道水は、沸かすと白い固形物が浮かんでくる硬水。加湿器から出る霧は、机やテレビに白い微細粉を残す。われわれの肺の中が気になってくる水だ。

新聞1面には、ロウソクで英語の勉強する幼稚園生の写真。水力発電に頼っている湖南省の首都長沙では、降水量不足で発電量が低下し、4日に1日の配電制限を行いはじめた。水問題は、エネルギー問題とも関係しているわけだ。中国の経済成長が持続しないという予想の根拠のひとつが、資源制約だが、すでに、その兆しが現れたともいえる写真だ。

トップ記事は、今年中に中国は米日独に次ぐ世界第4位の貿易国になるとの記事。経済面では、中国造船業が、2015年までには世界一になるとの予測記事。今年、建造量は、500万重量トン、世界の10分の1に達するが、上海と広州で計画されているドックヤードが完成すると、中国造船会社の建造能力は1500万重量トン、世界の3分の1の能力となるの見通しだ。上海では延長8kmの海岸線に2つの造船所を移転して1200万トンの施設を建造する工事に今月から着工し、広州では4.5kmの沿岸に300万トンの設備を建設する計画が調印された。日本と韓国の造船業はどうなるだろう。LPG船やLNG船などでは日本の造船業は優位を保つだろうが、普通の貨物船や専用船、タンカーはコスト競争で苦しくなることだろう。

昼は、元がローヤルゼリーの容器で延ばした皮で恵子がつくった餃子。良い皮で美味しくできた。

本の「はしがき」を書く。加藤論文と馬場論文の時期区分が違う原因を考えることで、過剰富裕化論の意味づけを試みた。

夕食は、深川飯、ナスの味噌煮込み、ツナサラダ。深川飯は「しほひ」の利用で美味しく食べられた。デザートはザボン。大きいから食べでがあるが、美味しいので、朝と晩で全部食べてしまった。安い贅沢だ。

12 / 6 (土)

天気は良いが、一昨日からの風邪が抜けないので散歩はやめる。

「はしがき」の前半が終わったので、メールに添付して加藤に見てもらおうことにする。

昼は、元の手製ニョッキ。意外に美味しい。

中島みゆきを聴きながら、午後も書き続けて、ひとまず完成させた。まだ未完の論文の紹介もしたのだから、いずれ修正することになるだろうが、とりあえず皆さんに検閲を頂くべくメールで送る。杉浦くんに送った分は、ボックスが一杯で帰って来てしまった。これはいつものことだ。

400字で30枚近くになったから、「はしがき」というのも変な感じになった。扱い方を考え直した方が良さそうだ。

恵子が利客隆スーパー - にいって、烏骨鶏を一羽買って来た(20元)。夕食は、この水炊き。皮ばかりか肉の表面も黒く、すこし気持ちが悪い感じだが、味はずこぶる良い。

BSテレビで、上海の若手建築家の優秀賞コンテストを観た。映し出される上海の浦東新区の開発ぶりには驚かされた。数年後には森ビルが世界最高のビルを建てらしい。里弄(リーロン)という上海独特の低層集合住宅の特徴を再開発の中で残していく設計をした女性建築家が銀賞を受けた。北京の胡同や四合院の雰囲気を残すような再開発は、たぶん無理なのだろう。

12/7(日)

だいぶ風邪は良くなったが、もう一日散歩は見送る。

オートミールの朝食。

新聞は、ロシアの鉄道爆破事件がトップ。並んでは、北京オリンピックのロゴ問題の記事。オリンピック北京組織委員会は、2008年のロゴマークの踊る北京を商標登録したが、ある国内会社が、ロゴと同一のエンブレムのデザイン特許と商品化権を申請した。申請が認可されると委員会が踊る北京の特許使用料を払う羽目にもなりかねないので、大問題になったらしい。ちょっと普通では考えられない問題の出方だが、知的所有権の保護をルールとして確立しようとしている中国では、この問題もルールに基づいて処理しなければならないところに悩みがあるわけだ。踊る北京のデザインは、「文」の字を基礎にして人が踊っているような形。

トヨタが新車の広告で深謝した話。日本でも報道されたように、トヨタが中英合弁の会社に委託して作成したプラドとランドクルーザーの広告が、中国を侮辱したとして非難され、トヨタが謝罪した。ひとつは、ランドクルーザーが故障した中国製トラックを牽引する図柄で、露骨ではあるがさしたる意味はない。もうひとつは2頭の唐獅子がプラドに敬礼して「尊敬すべし」と言っている図柄。中国では国のシンボリック存在の唐獅子が、日本車へ敬礼するのだからそもそも問題ではあるが、さらに、この唐獅子を蘆溝橋の欄干に並ぶ唐獅子と重ね合わせると、1937年7月の日本の侵略開始と共鳴するから、その暗喩は極めて衝撃的になる。天津に大型工場建設をはじめた企業としては、うかつなことだ。

10時過ぎに潘家園古文物市に出かける。バスで3環を北西の端から南東の端まで走って@4元。先日、李先生に連れていってもらった時には見られなかった店も回った。実に多種多様な品物がならんでいて面白い。古い椅子の背もたれの彫刻部分を目当てにいったのだが、今日は見あたらなかった。持ち帰ればインテリアに使える欄間やレリーフ、透かし彫りが沢山あるが、荷物になりそうで買う気はしない。結局、なにも買わずに帰りのバスに乗る。2階建てバスで、今度は@3元。運行会社によって価格設定が微妙に違うようだ。

双榆樹で降りて、利客隆でワインと食品を購入。成都小吃で包子と餃子を買って、部屋で遅い昼食。

長すぎる「はしがき」を序章にした場合を想定して、短いはしがきの草案を書く。

夕食はカボチャのほうとう。ソーセージや肉加工品も食べるが、ニンニクが利きすぎているのが問題点。

12/8(月)

散歩に行こうとしたら、まだやめた方が良いといわれて中止。李先生ご推薦の黒砂糖入り生姜湯を飲んでいたら良くなった。SARSに効く漢方薬の成分は生姜だったという研究もあるくらいだから、生姜は効き目があるのだろう。

朝は、お粥。昨日買って来た腐乳はずこし辛いけど味は良い。豆腐の発酵食品が日本には何故ないのだろう。チーズに相当する蛋白発酵食品だが、日本では、フナ鮭くらいしかない。新聞は、温首相訪米特集を別刷りにして、中米協力関係の強化をうたっている。しこりになっていた鉄鋼関税の撤廃をブッシュが発表したの、話し合いの環境は改善されたわけだ。貿易問題と台湾問題がメインイシュー。

本紙のトップは人民代表の選挙の記事。記事の見出しは「北京市民は広い投票選択権を得た」。次の水曜日が北京の投票日になっている。北京市の有権者は790万人で、3年任期の

市人民会議代表 4403 名を選ぶ。2326 の選挙区で、総定員より 30 ~ 50% 多い数の候補者にたいして直接投票が行われる。候補者は、立候補制ではなく有権者グループ単位を選ぶ。日本学研究センターも、北京外国語大学の下部単位になっていて、センターとしての候補者を数名、有権者の話し合いで選んで外国語大学に推薦する。外国語大学では、学部などの他の下部単位から推薦された候補者も含めて、話し合いで、大学としての候補者を決める。多分、大学が属する選挙区の候補者リストに載るのだろう。政党からの候補者も選ばれる。今回の選挙からは、大学のような組織推薦候補者、政党候補者のほかに、独立候補者もリストに載る。独立候補者は、10 人以上の有権者のグループが指名した人物というルールらしい。北京では、組織・政党候補者の数を、代表定員の 20% 以内に制限していると書いてあるから、独立候補者が多くなるのだろうか。深セン市の選挙では、独立候補者が党・組織候補者を破って当選したようだ。地方代表の上の階層、特別市・省・自治区の人民代表は、直接投票ではなく、地方代表によって選出される。中国的民主主義化だ。

日本関係は、企業が先行きを楽観視し始めたという記事。太平洋戦争開戦日は、ここでは無関係だ。レノンの命日であることも同様。

お昼は炒飯。

授業の日程を少し変える。2 年生の修士論文についての時間をつくることにして、講義内容を調整。レジュメをつくる。

夕食は、ローストビーフ。小さい塊をトースターで焼いた。かなり堅くて超薄切りにしないと食べにくい。この国の牛は、運動していて筋肉質なのだろうか。

12 / 9 (火)

久しぶりに双榆樹早市へ。基礎野菜、梨、ミカン、うどん、卵を購入。重い袋を担いで、成都小吃で包子と餃子。

送迎車に乗りきれないのでタクシーでセンターへ。2 年生の修士論文の指導。WQ さんのテーマが絞り切れていないので、相談に乗り、あとの 3 人は、元が教員室のパソコンで、資料へのアクセスなど指南。なにしろ、センターにある立派なパソコン室は、いまだに稼働していないので、皆さん寄宿舍から電話線で繋ぐ始末。これではラチがあかない。どうやら、来週あたりからは使用可能になるらしいが、ハコモノ先行型の悪い癖は、政府援助でも出てきてしまった恰好だ。

時間がかかって、帰りもタクシー。うどんで昼食。

新聞は、温首相訪米記事がトップで、アナン事務総長との写真が大きく載っている。ほかは、無人月ロケットを 3 年以内に打ち上げる話、クロコダイル・マーク係争の話が一面記事。あまり面白い記事はない。

3 年生の修士論文を読み始める。文章は上手だ。

恵子たちが利客隆スーパーで買い物をしてきた。土鍋に火鍋材料を入れたパックを 9.5 円で買って来た。深さ 18cm ほどの立派な土鍋で、単体で買えば 20 元くらいはしそうなもの。鍋材料は、野菜、肉団子、タコ、貝、蟹足カマボコ、スープで、これも単体では 8 元くらいで売っている。合わせてこの値段とは不思議だ。

本当に使える鍋かと、弱火にかけて様子を見守ったが、ひびも入らず、ちゃんと調理できた。日本にはこのような深鍋型の土鍋はないから、持ち帰ろうかとも話す。

12 / 10 (水)

小雪が降ってきた。フードをかぶって理工大に出かける。焼き餅を買ってから、雪に備えて豚バラを仕入れて帰る。野菜と果物を売る半露店は冬なので店じまいしたらしい。あの商人達は、冬はどうしているのだろう。

新聞トップは温ブッシュ会談。ブッシュが台湾でのレファレンダムに明確に反対を表明したので温首相の訪米は大成功だ。あとは、貿易問題。二人が肩を組む写真は印象深い。ブッシュの方がすこし背が高いが、振る手は温が上。いずれ、中国はアメリカと対抗する世界勢力になるだろう。

国際欄では日本のイラク派兵決定を大きく取り上げている。国内の反対が強いのに決定が

行われたとの論調だが、コメントは抜き客観報道。反対デモの写真を載せている。英米のイラク侵攻の正当性を認めると派兵は不可避になるのだし、日米関係からは正当性は認めざるを得ないことになったのだから、派兵決定は当然の帰結だ。平和憲法理念を掲げ続けたオタカさんの姿勢は正しい。平和理念抜きの復興支援は、侵略・占領のお先棒担ぎに過ぎない。テロ報復に備えて、国内の管理統制が強化されると、アメリカ並みの人権無視・管理国家になるのがオチだ。昨日の朝日新聞は、イギリスで、指紋・虹彩を登録したICチップ付きの身分証明書の導入が行われることを報じていた。未来小説ばりの管理国家の足音が聞こえる。

トラが高速道路を散歩した話。瀋陽で展示された東北トラたちが、ハルビンに帰る途中、トラックに積んだ檻を破ってしまった。最大のオス Huishan King が飛び出したが、他の3頭は檻に残った。King はそのまま高速道路を散歩。駆けつけた飼育係が麻醉銃で眠らせて収容して大事にはいたらなかったとのこと。なぜ高速道路から出なかったのか、他の3頭はなぜ外に出なかったのか、不思議な話だ。

元の作ったパスタで昼食。

送迎車でセンターへ。明日からの修士論文試問会について、徐先生から説明がある。合格基準について伺うと、日本と同水準だが、日本に留学している院生を念頭に判断する方が妥当で、博士後期進学能力の判定ではなく、修士終了の認定とのこと。なかなか微妙な基準だ。

送迎車で帰って、修士論文を読む。担当する3人、3様だ。

夕食は、ローストチキン。若鶏の小さいのをトースターで焼く。時間はかかったが、上手にできた。中国風焼き鶏の風味とは違って、さっぱりしていて美味しい。一時帰国なさった守屋先生からいただいた納豆でご飯。久しぶりの味。ベトナムにある納豆が、なぜ中国では定着しなかったのか不思議だ。何でも食べる中国人にして納豆はちょっとという日本通が多いからおかしい。納豆に生卵を入れてご飯にかけるのが好きともなれば、大日本通だ。ここにも新鮮な卵はあるのだが、生ではだめなのだろうか。試してみたいが、当たりでもしたら物笑いの種だから敬遠しているのだが。

12 / 11 (木)

双楡樹早市へ買出し。白菜、キャベツ、青梗菜など葉もの、ブロッコリ、いんげん、夏みかん(3個5元)。今日はあまり寒くはない。サイバービル前のクリスマスツリーは、飾り付けが終わったようだ。

オートミールの朝食。9:30の車でセンターへ。10:10からWRさんの口述試問を傍聴。30分発表して、1時間質疑。論文題目は「日本におけるネットワーク公共圏の可能性」。ハーバースの公共性概念を使って、インターネット上に政治社会問題へ発言する「公共圏」が形成される可能性を、実例2つを用いて、検討する。論文を読んでいないから判断はできないが、この種のサイトは沢山あるだろうから、その組織論、運動論、理念の分析は面白いだろう。3人の委員の判定で、WRさんは無事合格。判定教授会のような組織はないので、委員が即決して、外国語大学の学位評定委員会に書類を提出して、最終的に修士学位授与が決定される。

昼休みに濱先生のお嬢様がみんなにお土産をくださった。17日に帰国されるので迎えに来られたようだ。昼食は、留学生公寓1階の食堂でランチ。日本人留学生もいて、銀座という和食コーナーもある。

2:00からはMXさんの試問委員。「日本女性のキャリア形成に関する実証的研究」。2000年と2001年の総合社会調査JGSSを、上手な統計処理で分析して、結婚育児で中断されることなどのために、女性のキャリア形成が抑制されることを実証。さらに、インタビュー調査で、キャリアを積み上げてプレステージの高い職業・職務を獲得した女性たちの、ライフ・ヒストリーから、キャリア形成促進要因を探った。テーマにたいする既成データの適合性の吟味、統計分析とインタビューの接合方法などを質問。経験的観察結果を数値で実証した恰好の論文だが、手堅くまとめている。3人の判定は合格。

3:40からは、YMさんの「農業生産者の主体性回復と組織形成」。茨城県八郷町の有機農業農民を対象にして、生産物、消費者と共生して主体的に農業を営む農民の姿を調査し、農業を「楽しい」という農民の影響で、新規の農業参加者が登場していることを明らかにした。発想のオリジナリティを質問すると、現場で農民から学んだとのこと。対象となった農民に内山節の共生思想の影響は直接にはないようだ。自分の行動の中から、自然との共生、消費者との共生、村民との共生を「楽しい」生き方と把握したらしい。この農民を軸に、いくつかの類型的な有機農業農民を捉えて、組織論的に整理した論文で、思想性も孕んでいて面白い。彼女も合格。

皆さんと一緒にバスで帰宅。留守中、恵子達は、天外天市場から前門へ行って衣料品の買い物をした。

ポークシチューの夕食。お土産の松坂牛のしぐれ煮も美味しく頂く。

12 / 12 (金)

朝は理工大へ焼き餅を買いに行く。

9:30の車でセンターへ。ZWさんの修士論文「地域における育児ネットワーク」の試問。武蔵野市、横浜市、江東区の3つの育児広場をレポートして、育児不安の対処策としての機能と組織特性を分析した論文。自分でも子育て中のZWさん、研究と実践を両立させての労作だ。彼女も合格で、社会系の4人は全員無事合格。

昼食後、優秀作品推薦会議。4人の中から、センターの紀要に掲載する論文を1つ選ぶ。周、宋、呉3先生、それぞれに意見があって取りまとめには時間がかかった。最後は、投票で1点を選んだ。続いて、社会系全学生と懇談会。3年生が経験を後輩に語る。呉先生がもっと楽しく勉強するようにと発言。疑問点をはっきり持ち、それをひとつひとつ解き明かしていく喜びを積み重ねると楽しい学習ができるとアドバイス。

最後は多目的ホールで全体総括会。各コースの派遣教員が感想などを述べる。社会系については、実地調査が必要なテーマを短時間でまとめる能力の高さを褒め、全体として、取得単位が多いことに危惧を表明した。卒業要件単位は36なのに、皆さん50単位前後を取得している。自主的な勉強にはゆとりが必要だが、センターでは多くの単位を取ることが慣習化している。再考して欲しいところだ。

夜は、ホテル向かいのレストランで懇談会。国際交流基金の招待で、山崎所長もみえた。北京で渡辺淳一の文芸講演会が盛会だったとのこと。失樂園が受け入れられる時代になったのだ。小津作品上映会は、今年は実現できなかったが、来年を期しているとのこと。形成されつつある中国の中産階層は、小津の小市民に共感するのだろうか？

中日参加の懇親会は、有益だ。このような機会をもっと多い方が良いだろう。

帰ると、恵子もいない。元は院生と食事に誘われていたが、だれか気を利かせて恵子も誘ってくれたらしい。3年生が、合格祝いにみんなを招待したとのこと。社会系の院生達はまとまりが良いようだ。

12 / 13 (土)

双楡樹早市へ散歩。かなり寒く、帽子の耳隠しを下ろす。寒さの中、陸橋の上には物乞いの肢体障害者がいる。みかん、カリフラワー、うどんを買う。隣の市場で、大型焼き餅6分の1(1元)も買う。

恵子が焼いたパンなどで朝食。まあパンらしくはある。

昨日の新聞は、温首相がカナダのクレティン首相といくつかの協定を結んだ記事がトップ。北京市が文化財の修復に5年間で6億元を支出する計画で、イタリアや日本の企業にビジネスチャンスがあるとの記事。アメリカのバイオテロリズム対策法による輸入食品規制が新しい輸入障壁になるのではないかとの記事。東北虎の子がえさ取り訓練にアフリカに行った記事など。虎の話は、絶滅が危惧される東北虎の生後10ヶ月の子虎を南アフリカのプレトリア動物園に送って野生の動物を狩る訓練をしてから、連れ戻して中国の原野に放そうという計画。生態環境がだいぶ違うと思うが上手くいくのだろうか。

土日版では、中央に南京虐殺者のために新鑄された鎮魂の大鐘を衝く南京市民の写真。12

月 13 日が南京事件 66 周年に当たり、在日華人の寄付で梵鐘がつくられた。30 万人虐殺とこれまで通りの数字を挙げて追悼している。非戦闘員をまきこむ戦時の蛮行は、規模こそ違え、いまのイラクでも続いている。民族の心の傷は、時の流れで癒されるというものではなからう。

北京市の石炭不足の記事。冬を迎えて北京市は石炭不足に直面し、価格はトン当たり 150 元も高騰している。ひとつの原因はトラックの過積載規制が 12 月から強化されたことで、北京の出入貨物輸送量は 80% 近くも減少し、市内の滞貨は急増し、石炭搬入量も激減した。野菜や果物の価格騰貴も始まっているとのこと。郊外道路でふつうに見る積載量を倍くらい超えたトラックの列が無くなったとすると、たしかに大問題だろう。道路行政から規制を強化するのはいいが、流通行政への影響も考えなければマイナス効果ばかり大きくなる。ここでも、縦割り行政の弊害があるのだろう。

昼食は、元をつくるラビオリ。よくできた。

授業も残り少なくなっていて、ふたつの講義のまとめ部分をうまく重複を避けながら構想しなければならない。残る 4 回のレジュメを工夫しながらつくる。

夕食は鴨鍋。鴨 1 羽 (16 元) でなかなか美味しい。

杉浦論文の完成稿を読む。かなり難解ではあるが深みのある論文だ。ラカンと宇野弘蔵を同列に並べて論じるとは、大胆素敵。序章の解説部分をすこし直す必要がありそうだ。

12 / 14 (日)

双楡樹早市に買いだし。今日はあまり寒くない。ブロッコリー、しいたけ、レンコン、うどん、ザボン (大 @9 元) を買う。正月用に八頭に似た芋があるかと探したが今日はない。長ネギもない。過積載規制で入荷が減ったせいだろうか。早市脇で杭州小包子と餃子を買う (@2.5 元)。値段の割りに味は良い。

授業のレジュメづくりを続ける。

昼食は、ザルうどん。

風があれば樋口さんの坊やを誘って天安門へ凧揚げに行こうと思うが、微風程度。小さなビニール凧ならともかく、龍凧は揚がりそうにない。

センターの講義レジュメは終わった。勢いに乗って南開大学向けのレジュメをつくって楊先生にメールで送る。

ハンス・ホッターの訃報が朝日新聞に載っていたので、彼の冬の旅を聴きながら仕事をした。すこしスローテンポだが、低めのバリトンがきれいだ。

おやつにお汁粉を食べる。あんこは袋入りの中国産、餅も中国産で、四角い塊を切って、トースターで焼くと、すこしふくらんで焼き餅らしくなる。コシはないが、けっこう食べられる。これなら、お雑煮にも使えそうだ。

夕食は、肉団子、野菜炒めなど。

日本学総合講座向けのレジュメをつくり始める。

12 / 15 (月)

5 時半に目が覚めて、レジュメづくりをしていたら、散歩に行くタイミングを失した。

お粥の朝食。腐乳が良く合う。

新聞で、フセイン拘束のニュースを知った。親族の通報の結果だから、懸賞金政策は成功したわけだ。彼が捕まっても、イラク情勢は好転はしないだろう。アフガニスタンもまともそうにない。デモクラシーの帝国は、どうやって始末を付けるつもりだろう。

一面中央には、ロウソクを持つ可愛い少女と花を捧げる車椅子の老女の写真。南京虐殺 66 周年の追悼集会のスナップだ。歴史は、まさにつくられ続けていく。

賃金未払いの記事。春節前に未払い賃金を支払うように各地方政府が企業に働きかけている。建築・建設関連企業が、賃金支払いを先延ばしするのは広く見られる現象で、苦情処理ホットラインには、出稼ぎ労働者からの相談が殺到している。悪質企業に対しては、請負入札への参加禁止などの措置がとられるというが、あまり徹底していないようだ。春節に郷里にかえる労働者に、賃金を支払うよう行政が後押しする図柄は、いまの再開発ラッ

シュの裏にあるものを良く示している。土地を不当に安く買い上げられ、出稼ぎに行けば賃金未払いでは、踏んだり蹴ったりだ。農民へのしわ寄せは不当に大きい。農民は反乱を起こしませんかと訊くと、周先生は、中国の農民は我慢強いからとのこと。それでも、我慢の限界はあるだろう。適切に対処しないと、それこそ、ゴードン・チャンの中国崩壊予言が当たってしまうかもしれない。

資源問題の記事 2 題。山東省では、海水淡水化事業が大規模に進められている。技術が進んで、1 トン当たりのコストは、かつての 7 元から 5 元にまで下がり、建設予定の最新設備では 3.7 元になるという。これは、普通の上水道料金並みとのこと。一人当たり年間水供給量は 200 立方メートルと、国際標準の 1000 立方メートルの 5 分の 1。安徽省の首都合肥市では、繁華街の街路灯が消されている。ホテルや商店のネオンや電飾も消えて暗い街になった。水不足で電力不足のため。

2020 年の石油消費量は、少なくとも 4.5 億トンになり、その 60% は輸入との予想。明らかに日本の消費量を上まわることになる。

水といい石油といい、中国の 2 大資源問題だ。

昼は、卵うどん。食後、元は、ZY さんのアンケート案についてアドバイスをしにセンターへ出かけた。

大鐘寺方面に散歩。ショッピングセンターがあって、図書、家電、電子機器などの大きな店がある。書店に入ると、参考書、実用書、パソコン書の棚が並ぶ。経営経済関係の棚には、アメリカ書の中国版原書・翻訳書が圧倒的に多い。経済学ではあらかじめ西方経済学で、すこしだけ社会主義経済書があるが、マルクス経済学の本は見あたらなかった。MBA の棚や経営管理の棚の前に人が多かった。まさに市場経済の国だ。

法律関係では、民法・刑法中心に個別法解釈書が多くて、憲法書は 1 種類しかない。『中国憲法教程』14.8 元を 1 割引で購入。憲法研究はあまり盛んでないようだ。変化の途上で問題が微妙なためだろう。

甘栗を買って帰室。元は、ネットで資料を探してあげたりで遅く帰ってきた。

6 時から賓館の食堂で濱先生の送別会。美しいお嬢さまも参加して、和やかに会食。松阪牛のタンは、普通の牛のものより美味しいらしい。アワビは一晚ジアスターゼに浸けておいてステーキにすると柔らかくて美味しいと、濱先生。中華円卓の上に置く回転式テーブルは、本来中国にはなく、日本からの逆輸入とは代田先生の話。皆さんの観察で、やはり、カレーとピザは、若者以外には好まれていないようだ。

12 / 16 (火)

昨夜から恵子、食中たりで大変。朝には治まったので、磯部まきを食べてから授業に行く。2 年生に経済復興から平成不況までのテーマで、復興のところだけを話す。高度成長以降はすでに木曜日の授業で説明してあるので省略。3 年生の修士論文についての感想を話す。論文には人柄が現れるという発言には少し驚いたようだ。論文テーマにどのくらいの広がりがあるかも話す。小さくまとまって終わってしまうテーマと、掘れば掘るほど深くなるテーマ。みな、まだ自分のテーマの広がりを自覚していない。自覚するかどうか、これからの課題だ。

教員室での話。集中講義に来られた東北大の高橋先生が、北京大学の図書館で資料を見せてもらったら、料金を取られたという。清水先生が、市場経済になってからどの図書館も料金制を取るようになってきて、魯迅記念館でもそうだったと返事。見たい資料をたのむと、前よりもすばやく出してきてくれるので、サービスが良くなったと思っていたら、後から料金を請求されて驚いたとの経験談。

料金といえば、昨日から使えるようになったセンターのパソコン室も、1 時間 2 元の料金を院生からとるのはおかしいとアピールしたら、北京外国語大学全体が課金システムなので仕方がないと清水先生。カード課金ではなく、1 人の係を置いて徴収するとのこと。それはコストで動く市場経済ではないということ、代田先生が、そこが面白いところと発言。パソコン室に、時間を計る人間が座っているのが、中国のモダンとポストモダンの姿とか。

タクシーで帰宅。元がシーフード・スパゲティを作ってくれる。けっこう上手くつくる。シェフから研究者になったのは室山さんだ。その逆はあるかな？

元と買い物に出る。当代商城の地下のスーパーは、品ぞろいが悪いし高かったので、利客隆に行く。鳥鍋にして、夕食。

新聞は、中国当局がテロリスト集団と人物のリストを初めて公表したと報道。中国籍のウイグル族から、東トルキスタン独立を支援する人物と集団が出たようだ。キルギスタンでの中国外交官殺害事件などの犯人に特定されている。矛先が外国だからまだ良いが、向きが変わったら大変だ。

行政当局相手の訴訟で、人民が勝訴するケースが増えてきたとの記事。不当な土地収用や移住強制などに対する提訴で、勝率は 75%にまで上昇したという。以前、春節の時期に鉄道料金を値上げしたことに対して不当と提訴した人物は、勝てなかったが、当局が鉄道改革を開始するきっかけをつくった弁護士で、今は、耕地 80 ヘクタール不当収用事件を当事者に代わって扱っている。それでも、まだ中国人は、訴訟をためらう傾向が強いと、ある判事が指摘している。映画の秋菊は、やはり、少数派なのだ。

12 / 17 (水)

朝、双楡樹早市へ買いだし。リンゴ2種、ブロッコリ、クワイ、インゲン、紅苔菜、うどん、包子と餃子を購入。先日のクワイはクワイではなかったもので、今日のは多分本当のクワイ。リンゴは富士系とデリシャス系、各6~7個で@5元。紅苔菜は太いので皮を剥かないと堅いが美味。

新聞は、中国が中東和平に果たす役割を期待するとのイスラエル大統領の発言がトップ。北京市の人民代表選挙結果の記事。18 地方区会 4403 名の代表が選出され、5年間の職に就く。投票率は 95%、女性代表は 32%、高等教育を受けた者 79%。2336 選挙区の中で、34 選挙区では第1回投票では決まらず第2回投票を行った。党・組織推薦以外の独立候補者も当選した。海淀区人民代表会議には、北京交通大学から 30 歳の男性講師が選出されたが、彼は 22 人の推薦者から推されて独立候補となり、285 人の候補のなかからの第1回選挙で第2位、上位6人についての第2回選挙でトップ4に入り、最後の選挙で 1万 2609 票中 1万 106 票を獲得して当選した。「われわれの真の代表を選ぶことができた」とは有権者の声。事実上の立候補制が普及する方向と思われる。

学校の違法課金の記事。電子入学手続き費、机椅子費、居住書類費、夜間勉学費、駐輪費、学校建設費、論文指導費などなど、学校・大学での授業料以外の課金が多いことが問題になっている。監査の結果、6000 校で合計 214 億元の違法課金が見つかった。なかには、合格点数以下の受験生から協力費という名目の金をとって入学させたり、1万元はするコンピュータを寄付させたりする学校があったという。天津でも、有名中学が不足点数分を寄付させる話を聞いたことがあるから、広く行われているのだろう。監察を強化するとともに、ホットラインを開設して学生生徒の不平を聞く体制をつくったようだ。これも、独立採算原則を導入した結果の弊害だろう。

昼頃、濱先生が帰国されるので公寓の門でお見送り。周さん運転のオーディがここに向かう途中で追突事故を起こしたので、急遽タクシーでご出発。北京滞在記を含めて紀行本をまとめられるとのこと。芭蕉研究者の当代旅エッセイ、刊行が楽しみだ。

卵うどんで昼食。

明日の天津行きの切符を買いに行く。恵子達は明後日行くことにした。

午後は、天津社会科学院での座談会用のレジュメをつくる。

夕食は鳥の唐揚げ。

BSで「冬のソナタ」を観る。純愛ものだが、日本で大受けしたのは、現実に純愛が消滅してしまっただからだろう。中国でも評判がいいようだが、こっちは、現実との二重写しを味わっていきそう。韓国は、その中間くらいか？われわれが観るのはノスタルジア！？元は、出演者などコストを最小限にして最大の効果を上げる技はさすが韓国、すごいと言う。醒めているのは元か。

12 / 18 (木)

朝食後、センターへ。1・2年生に「日本はどこに行くのか」を技術革新の現状と資源環境問題から話す。エントロピー概念は初めてのようで、質問が多い。

炒飯で昼食。タクシーで西直門、地下鉄で北京駅へ。南側の地下駅建設工事はかなり進んでいて、先月末に鉄筋作業をしていた部分はコンクリート打ちが終わって、土が盛られている。続きの部分ではコンクリート打ちが行われている。寒さ除けか、ミキサー車の回転ドラムには布が被せてある。打ち終わったところは、ビニールで養生している。

天津までは冬景色。養魚池や水路には氷が張っている。枯れ木立の間を、羊の群がのんびり歩く。駅からのタクシーが信号待ちをしていると、赤ん坊を抱いた若い母親がコップを持って物乞いに回ってきた。働く職場がないのだろうか。

12 / 25 (木)

まだ風邪が抜けないが、木曜日最後の授業。1年生と3年生がクリスマスカードをくれた。市場原理主義の行方をテーマに、日本経済の行方、市場の失敗、市場原理主義、限界を超えてと話す。これまでおりにふれて問題にしてきた論点をまとめた。低成長提案については、どの程度のレベルかとの質問、日本の1960年頃の生活水準と答えるが、元も、とても無理なことと言う。馬場がいう一人当たりGDP5000ドルの過剰富裕化基準の半分以下だろうから厳しすぎるかもしれないが、あのころの日本人は結構満足した生活を楽しんでいたような気がする。まあ比較基準が戦後の耐乏生活だから、今の若者にはとても無理な水準だろう。5000ドル基準なら1970年頃ということになるが、この時点では資源消費は大きくなりすぎている。先進国の消費を引き下げるよりも、後発国の消費上昇をどこかで止める方が易しそうだが、これでは不公平を固定化してしまう。難しい問題だ。

昼食に戻って、午後再びセンターへ。日本学総合講座の最終回を担当して「日本経済はどこに行くのか」を話す。失われた13年にいたる戦後の歩みを日本経済の失敗として概観し、グローバル化の時代について市場原理主義は当てになるかと問い、最後に、資本主義の失敗として、成長に成功するがゆえの失敗の可能性を語り、これを、人類の失敗にしないためには、新しい経済社会の構築と、個人が賢い消費者、知足人・共生人・共苦人になることが必要と結んだ。社会コースの1年生が次々に立って、堂々とした質問をする。授業の時とは違って、理路整然とした内容の深い質問で、感心した。聴衆がいるので気張っているらしい。日本的経営、国民国家と世界政府、経済政策の可能性などについて補足説明ができた。在職修士コースの院生は、日本の為替レートと人民元の引き上げ問題の質問。周先生は産業空洞化について、司会の徐先生も東アジア共同体の可能性について質問して下さった。アメリカとの関係が深すぎる日本ではなく、成長する中国が、高い理念を掲げてアジアをまとめることへの期待を述べた。

引き続いて社会コースの集中講義に来られた東京農工大の若林敬子先生の研究会。現代中国における人口政策と2010年への展望というテーマで、学会会報に書かれたエッセイを中心に報告。毛沢東の人口資本説を否定して、彼の没後、1979年から採用された一人っ子政策は、大躍進期の失敗がもたらした1960年の人口減少のあとの大ベビーブーム世代が成人したときに生じたであろう2次的出産ブームを回避する政策として成功した。今後、2010年までは、一人っ子政策は維持される。最近の政策修正は、マスコミが報道するような政策転換ではない。イスラム人口の爆発的増加が21世紀前半の大問題などなど。

研究会のあと会食があったが、風邪気味でご遠慮。元だけが参加。

カレーライスで夕食。元は、北京外大の東西キャンパスを結ぶ地下道で切り絵と花を買って帰宅。院生研究室でレポートを読んできて、日本語が上手いのに感心している。

12 / 26 (金)

調子がいいので恵子と双榆樹早市に買い出しに行く。ジャガイモ、タマネギ、インゲン、ほうれん草、百合根、しいたけ、卵、うどん、ザボンと包子・餃子を買う。となりの市場も見学。冷たい風に当たったせいで、また咳が激しくなってしまった。

新聞トップは、重慶北東337kmのガス田の硫化水素噴出事故を写真入りで報道。191人が

死亡、600人以上が入院という大事故。有毒ガスは点火して燃焼させているが、噴出は止まっていない。炭鉱事故など、地下資源関係の事故は数が多い。

今日は毛沢東生誕 110 周年で、湖南省韶山の生家のにぎわいが紹介されている。北京の記念堂へは中高年の参詣者が多くて若者は少ないという観察への反論もあり、毛沢東語録に励まされるという 20 代の若者の発言もある。かつての神格化は影を潜め、功績と共にマイナス面も認める論調だ。「毛は世俗世界に戻った」という記事もある。普通人である毛は、それなりの過ちも犯したというわけ。偉大な人物だっただけに間違いを犯した時の影響も大きいとは郭先生の言だ。

腐敗幹部の続報。11月までに県・中央政府幹部13人が処分されたが、これはかつてない大きな数で、腐敗追及の政府姿勢の強さを示しているという。高度に効率的な市場経済への移行途上の中国には、規則や規制におおくの抜け穴があって金銭で特権を売買する余地があり、国有企業改革、金融業務、開発計画、用地処分などは、腐敗の温床になりやすいと指摘している。「権力は腐敗する、絶対的権力は絶対的に腐敗する」とは名言で、権力のヒエラルキー構造が存在する場合の腐敗防止は理論的には不可能なのではなかろうか？大衆に奉仕する幹部像を、この急激な市場経済化の流れのなかで求めるのは、かなり無理な話だ。監察制度を強化するしかなかろうが、濱の真砂を相手の監察は超管理社会を招来するし経済的負担も大きい。コスト・ベネフィット原則で、ほどほどにやるしかないだろう。まずは、司法部門の腐敗を最小化しないと、法治国家にならない。裁判が金銭で左右されるなど、信じがたい現状は、法への信頼を大きく損ねている。

昼はカレーうどん。

咳がおさまらず、腹筋が痛くなってきたので、アミノバイタルを服用して、昼寝。

夜はトンカツ。

BSで冬のソナタの最終回を観る。ストーリー展開に不自然さが目立つシナリオだった。若い世代が純愛で、父母の世代が自由恋愛とは。

12/27(土)

咳がとれないので散歩は中止。ホットケーキの朝食。

上田論文改版を読む。なかなかの出来だ。EMSで出版会から初校ゲラが届いた。賀状代わりの仕事依頼で申し訳ないと池田さんは書いているが、こっちが急がせているのだから仕方がない。

恵子達はお土産の買い出しに前門方向へ出かけた。ベッドで、杉浦論文改版を読むが、歯ごたえがあって、つい、うとうと。

卵うどん昼食。

樋口先生から督促が来たので、センター通信に載せる離任の言葉を書き始める。「北京の140日」と題して、講義の姿勢が、ひとつの贖罪であったことを書く。

3時頃、恵子たちが帰ってきた。こまごまと買い整えたようだ。あいかわらず、価格設定の奇妙さに感心している。

BS7時のニュースで、広州市でSARS患者が出たことを告げている。まだ診断は確定していないようだが、今後どうなるか心配ではある。

ハンバーグの夕食。買い物で疲れた恵子はブランディでご機嫌。こっちはまだ飲めないから、いつもとは逆転した構図だ。

体温を上げると咳が出るので、シャワーを浴びる。ここの風呂は、ロシアサイズなのか、排水口をタオルで塞いで横になると、ゆっくりお湯に浸かれるので気持ち良いのだが、今日は我慢。

12/28(日)

まだ散歩に出る気はしない。賓館内のスーパーで、フランスパン、クロワッサン、チョコデニッシュ、牛乳を、事務室で水を買ってきて朝食。

新聞1面は、イランの地震と重慶のガス噴出事故を大きく報道。2面には、26日に人民大会堂で開催された共産党中央委員会主催の毛沢東生誕 110 周年記念行事の記事。胡主席

らが参加し、記念堂にも参詣した。記念コンサートも行われたようだ。今年は、毛沢東に関する本が 70 種類も発行されたとのこと。

ビジネス面には、経済ジャーナリストとエコノミストが選んだ今年の 10 大経済ニュースが出ている。第 1 位は SARS 流行にもかかわらず成長率は 8.5%を確保したこと、以下、 はスイスユニオン銀行と野村証券が初の証券業務許可を得たこと(5月) 三峡ダムの貯水と発電開始(6月) 政府が香港・マカオ政府と経済パートナーシップ協定を締結(6月・12月) 各地の電力・石炭・石油不足(2003 年後半期) 温首相の人民元安定優先発言(8月) 東北重工業の再生戦略決定(9月) 共産党中央委員会の社会主義市場経済改良コミュニケ発表(10月) 国有企業再編方針の明確化(12月) 800 万人の雇用を創出して都市登録者失業率を 4.5%に抑制(12月)。

今年、中国の一人当たり GDP は 1000 ドルを越えるとの記事。平均の話で、農民所得は 300 ドルだから、格差は大きく、この対策が今後の大きな課題と書いている。2020 年には 3000 ドルにまで高めることが目標。3000 ドル×13 億人=3.9 兆ドル、日本の 1998 年頃の水準だ。日本に次ぐ第 3 の経済大国になるだろう。

恵子たちは食材の買い出しに出かける。2 年生の指導記録を書く。後任者に残して指導の参考にする意図で作成を要請された。ついでに 1・2 年生の成績簿も記入する。来年度からは、入学者の中から日本留学できる者を選抜することになるようだが、今年は全員留学だから評価は気楽にできる。

昼は、包子とサンドイッチ。

昼寝。机の周りの書類の山を片付けて、持ち帰るものを選び出す。そろそろ帰り支度だ。本の部・章のタイトルを変えることを考えて、池田さんにメール。もう仕事納めだろうが。夕食は、シタピラメのムニエル、スペアリブのロースト、切り干し大根煮物。ソールにしてもスペアリブにしても、素材のうま味が日本ものにくらべて劣る感じだ。

12 / 29 (月)

まだ散歩に出る気はしない。賓館内のスーパーで、フランスパン、クロワッサン、チョコデニッシュ、牛乳を、事務室で水を買ってきて朝食。

新聞 1 面は、イランの地震と重慶のガス噴出事故を大きく報道。2 面には、26 日に人民大会堂で開催された共産党中央委員会主催の毛沢東生誕 110 周年記念行事の記事。胡主席らが参加し、記念堂にも参詣した。記念コンサートも行われたようだ。今年は、毛沢東に関する本が 70 種類も発行されたとのこと。

ビジネス面には、経済ジャーナリストとエコノミストが選んだ今年の 10 大経済ニュースが出ている。第 1 位は SARS 流行にもかかわらず成長率は 8.5%を確保したこと、以下、 はスイスユニオン銀行と野村証券が初の証券業務許可を得たこと(5月) 三峡ダムの貯水と発電開始(6月) 政府が香港・マカオ政府と経済パートナーシップ協定を締結(6月・12月) 各地の電力・石炭・石油不足(2003 年後半期) 温首相の人民元安定優先発言(8月) 東北重工業の再生戦略決定(9月) 共産党中央委員会の社会主義市場経済改良コミュニケ発表(10月) 国有企業再編方針の明確化(12月) 800 万人の雇用を創出して都市登録者失業率を 4.5%に抑制(12月)。

今年、中国の一人当たり GDP は 1000 ドルを越えるとの記事。平均の話で、農民所得は 300 ドルだから、格差は大きく、この対策が今後の大きな課題と書いている。2020 年には 3000 ドルにまで高めることが目標。3000 ドル×13 億人=3.9 兆ドル、日本の 1998 年頃の水準だ。日本に次ぐ第 3 の経済大国になるだろう。

恵子たちは食材の買い出しに出かける。2 年生の指導記録を書く。後任者に残して指導の参考にする意図で作成を要請された。ついでに 1・2 年生の成績簿も記入する。来年度からは、入学者の中から日本留学できる者を選抜することになるようだが、今年は全員留学だから評価は気楽にできる。

昼は、包子とサンドイッチ。

昼寝。机の周りの書類の山を片付けて、持ち帰るものを選び出す。そろそろ帰り支度だ。

本の部・章のタイトルを変えることを考えて、池田さんにメール。もう仕事納めだろうが。夕食は、シタピラメのムニエル、スペアリブのロースト、切り干し大根煮物。ソールにしてもスペアリブにしても、素材のうま味が日本ものにくらべて劣る感じだ。

12 / 25 (木)

まだ風邪が抜けないが、木曜日最後の授業。1年生と3年生がクリスマスカードをくれた。市場原理主義の行方をテーマに、日本経済の行方、市場の失敗、市場原理主義、限界を超えてと話す。これまでおりにふれて問題にしてきた論点をまとめた。低成長提案については、どの程度のレベルかとの質問、日本の1960年頃の生活水準と答えるが、元も、とても無理なことと言う。馬場が一人当たりGDP5000ドルの過剰富裕化基準の半分以下だろうから厳しすぎるかもしれないが、あのころの日本人は結構満足した生活を楽しんでいたような気がする。まあ比較基準が戦後の耐乏生活だから、今の若者にはとても無理な水準だろう。5000ドル基準なら1970年頃ということになるが、この時点では資源消費は大きくなりすぎている。先進国の消費を引き下げるよりも、後発国の消費上昇をどこかで止める方が易しそうだが、これでは不公平を固定化してしまう。難しい問題だ。

昼食に戻って、午後再びセンターへ。日本学総合講座の最終回を担当して「日本経済はどこに行くのか」を話す。失われた13年にいたる戦後の歩みを日本経済の失敗として概観し、グローバル化の時代について市場原理主義は当てになるかと問い、最後に、資本主義の失敗として、成長に成功するがゆえの失敗の可能性を語り、これを、人類の失敗にしないためには、新しい経済社会の構築と、個人が賢い消費者、知足人・共生人・共苦人になることが必要と結んだ。社会コースの1年生が次々に立って、堂々とした質問をする。授業の時とは違って、理路整然とした内容の深い質問で、感心した。聴衆がいるので気張っているらしい。日本的経営、国民国家と世界政府、経済政策の可能性などについて補足説明ができた。在職修士コースの院生は、日本の為替レートと人民元の引き上げ問題の質問。周先生は産業空洞化について、司会の徐先生も東アジア共同体の可能性について質問して下さった。アメリカとの関係が深すぎる日本ではなく、成長する中国が、高い理念を掲げてアジアをまとめることへの期待を述べた。

引き続いて社会コースの集中講義に来られた東京農工大の若林敬子先生の研究会。現代中国における人口政策と2010年への展望というテーマで、学会会報に書かれたエッセイを中心に報告。毛沢東の人口資本説を否定して、彼の没後、1979年から採用された一人っ子政策は、大躍進期の大失敗がもたらした1960年の人口減少のあとの大ベビーブーム世代が成人したときに生じたであろう2次の出産ブームを回避する政策として成功した。今後、2010年までは、一人っ子政策は維持される。最近の政策修正は、マスコミが報道するような政策転換ではない。イスラム人口の爆発的増加が21世紀前半の大問題などなど。

研究会のあと会食があったが、風邪気味でご遠慮。元だけが参加。

カレーライスで夕食。元は、北京外大の東西キャンパスを結ぶ地下道で切り絵と花を買って帰宅。院生研究室でレポートを読んできて、日本語が上手いのに感心している。

12 / 26 (金)

調子がいいので恵子と双楡樹早市に買い出しに行く。ジャガイモ、タマネギ、インゲン、ほうれん草、百合根、しいたけ、卵、うどん、ザボンと包子・餃子を買う。となりの市場も見学。冷たい風に当たったせいで、また咳が激しくなってしまった。

新聞トップは、重慶北東337kmのガス田の硫化水素噴出事故を写真入りで報道。191人が死亡、600人以上が入院という大事故。有毒ガスは点火して燃焼させているが、噴出は止まっていない。炭鉱事故など、地下資源関係の事故は数が多い。

今日は毛沢東生誕110周年で、湖南省韶山の生家のにぎわいが紹介されている。北京の記念堂へは中高年の参詣者が多くて若者は少ないという観察への反論もあり、毛沢東語録に励まされるという20代の若者の発言もある。かつての神格化は影を潜め、功績と共にマイナス面も認める論調だ。「毛は世俗世界に戻った」という記事もある。普通人である毛は、それなりの過ちも犯したというわけ。偉大な人物だっただけに間違いを犯した時の影響も

大きいとは郭先生の言だ。

腐敗幹部の続報。11月までに県・中央政府幹部13人が処分されたが、これはかつてない大きな数で、腐敗追及の政府姿勢の強さを示しているという。高度に効率的な市場経済への移行途上の中国には、規則や規制におおくの抜け穴があって金銭で特権を売買する余地があり、国有企業改革、金融業務、開発計画、用地処分などは、腐敗の温床になりやすいと指摘している。「権力は腐敗する、絶対的権力は絶対的に腐敗する」とは名言で、権力のヒエラルキー構造が存在する場合の腐敗防止は理論的には不可能なのではなからうか？大衆に奉仕する幹部像を、この急激な市場経済化の流れのなかで求めるのは、かなり無理な話だ。監察制度を強化するしかなからうが、濱の真砂を相手の監察は超管理社会を招来するし経済的負担も大きい。コスト・ベネフィット原則で、ほどほどにやるしかないだろう。まずは、司法部門の腐敗を最小化しないと、法治国家にならない。裁判が金銭で左右されるなど、信じがたい現状は、法への信頼を大きく損ねている。

昼はカレーうどん。

咳がおさまらず、腹筋が痛くなってきたので、アミノバイタルを服用して、昼寝。

夜はトンカツ。

BSで冬のソナタの最終回を観る。ストーリー展開に不自然さが目立つシナリオだった。若い世代が純愛で、父母の世代が自由恋愛とは。

12/27(土)

咳がとれないので散歩は中止。ホットケーキの朝食。

上田論文改版を読む。なかなかの出来だ。EMSで出版会から初校ゲラが届いた。賀状代わりの仕事依頼で申し訳ないと池田さんは書いているが、こっちが急がせているのだから仕方がない。

恵子達はお土産の買い出しに前門方向へ出かけた。ベッドで、杉浦論文改版を読むが、歯ごたえがあって、つい、うとうと。

卵うどんで昼食。

樋口先生から督促が来たので、センター通信に載せる離任の言葉を書き始める。「北京の140日」と題して、講義の姿勢が、ひとつの贖罪であったことを書く。

3時頃、恵子たちが帰ってきた。こまごまと買い整えたようだ。あいかわらず、価格設定の奇妙さに感心している。

BS7時のニュースで、広州市でSARS患者が出たことを告げている。まだ診断は確定していないようだが、今後どうなるか心配ではある。

ハンバーグの夕食。買い物で疲れた恵子はブランディでご機嫌。こっちはまだ飲めないから、いつもとは逆転した構図だ。

体温を上げると咳が出るので、シャワーを浴びる。ここの風呂は、ロシアサイズなのか、排水口をタオルで塞いで横になると、ゆっくりお湯に浸かれるので気持ちいいのだが、今日は我慢。

12/28(日)

まだ散歩に出る気はしない。賓館内のスーパーで、フランスパン、クロワッサン、チョコデニッシュ、牛乳を、事務室で水を買ってきて朝食。

新聞1面は、イランの地震と重慶のガス噴出事故を大きく報道。2面には、26日に人民大会堂で開催された共産党中央委員会主催の毛沢東生誕110周年記念行事の記事。胡主席らが参加し、記念堂にも参詣した。記念コンサートも行われたようだ。今年は、毛沢東に関する本が70種類も発行されたとのこと。

ビジネス面には、経済ジャーナリストとエコノミストが選んだ今年の10大経済ニュースが出ている。第1位はSARS流行にもかかわらず成長率は8.5%を確保したこと、以下、スイスユニオン銀行と野村証券が初の証券業務許可を得たこと(5月)、三峡ダムの貯水と発電開始(6月)、政府が香港・マカオ政府と経済パートナーシップ協定を締結(6月・12月)、各地の電力・石炭・石油不足(2003年後半期)、温首相の人民元安定優先発

言(8月) 東北重工業の再生戦略決定(9月) 共産党中央委員会の社会主義市場経済改良コミュニケ発表(10月) 国有企業再編方針の明確化(12月) 800万人の雇用を創出して都市登録者失業率を4.5%に抑制(12月)

今年、中国の一人当たりGDPは1000ドルを越えるとの記事。平均の話で、農民所得は300ドルだから、格差は大きく、この対策が今後の大きな課題と書いている。2020年には3000ドルにまで高めることが目標。3000ドル×13億人=3.9兆ドル、日本の1998年頃の水準だ。日本に次ぐ第3の経済大国になるだろう。

恵子たちは食材の買い出しに出かける。2年生の指導記録を書く。後任者に残して指導の参考にする意図で作成を要請された。ついでに1・2年生の成績簿も記入する。来年度からは、入学者の中から日本留学できる者を選抜することになるようだが、今年は全員留学だから評価は気楽にできる。

昼は、包子とサンドイッチ。

昼寝。机の周りの書類の山を片付けて、持ち帰るものを選び出す。そろそろ帰り支度だ。本の部・章のタイトルを変えることを考えて、池田さんにメール。もう仕事納めだろうが。夕食は、シタピラメのムニエル、スペアリブのロースト、切り干し大根煮物。ソールにしてもスペアリブにしても、素材のうま味が日本ものにくらべて劣る感じだ。

12/29(月)

まだ散歩に出る気はしない。賓館内のスーパーで、フランスパン、クロワッサン、チョコデニッシュ、牛乳を、事務室で水を買ってきて朝食。

新聞1面は、イランの地震と重慶のガス噴出事故を大きく報道。2面には、26日に人民大会堂で開催された共産党中央委員会主催の毛沢東生誕110周年記念行事の記事。胡主席らが参加し、記念堂にも参詣した。記念コンサートも行われたようだ。今年は、毛沢東に関する本が70種類も発行されたとのこと。

ビジネス面には、経済ジャーナリストとエコノミストが選んだ今年の10大経済ニュースが出ている。第1位はSARS流行にもかかわらず成長率は8.5%を確保したこと、以下、はスイスユニオン銀行と野村証券が初の証券業務許可を得たこと(5月) 三峡ダムの貯水と発電開始(6月) 政府が香港・マカオ政府と経済パートナーシップ協定を締結(6月・12月) 各地の電力・石炭・石油不足(2003年後半期) 温首相の人民元安定優先発言(8月) 東北重工業の再生戦略決定(9月) 共産党中央委員会の社会主義市場経済改良コミュニケ発表(10月) 国有企業再編方針の明確化(12月) 800万人の雇用を創出して都市登録者失業率を4.5%に抑制(12月)

今年、中国の一人当たりGDPは1000ドルを越えるとの記事。平均の話で、農民所得は300ドルだから、格差は大きく、この対策が今後の大きな課題と書いている。2020年には3000ドルにまで高めることが目標。3000ドル×13億人=3.9兆ドル、日本の1998年頃の水準だ。日本に次ぐ第3の経済大国になるだろう。

恵子たちは食材の買い出しに出かける。2年生の指導記録を書く。後任者に残して指導の参考にする意図で作成を要請された。ついでに1・2年生の成績簿も記入する。来年度からは、入学者の中から日本留学できる者を選抜することになるようだが、今年は全員留学だから評価は気楽にできる。

昼は、包子とサンドイッチ。

昼寝。机の周りの書類の山を片付けて、持ち帰るものを選び出す。そろそろ帰り支度だ。本の部・章のタイトルを変えることを考えて、池田さんにメール。もう仕事納めだろうが。夕食は、シタピラメのムニエル、スペアリブのロースト、切り干し大根煮物。ソールにしてもスペアリブにしても、素材のうま味が日本ものにくらべて劣る感じだ。

12/30(火)

今日も散歩は見送り。2年生に最後の授業。グローバリズムは人類に幸福をもたらすか?をテーマに、戦争の原因論、デモクラシーの帝国=アメリカ、21世紀展望を話す。今回の日本学研究センターと南開大学日本研究院の講義を通して、現代が人類史の危機の時代

というメッセージは伝わったと思う。市場経済の下での経済成長を続ける中国で育つ若者たちには、感覚的には分かりにくいメッセージだろうが、知的に優れた人たちだから、論理的には理解してくれた。ささやかな波紋だが、なにかが残ることを期待しよう。

帰宅して天ぷらうどんの昼食。午後の便でセンターへ。1年生の修士論文テーマについて相談に乗る。元は2年生のパソコン相談。ZYさんは、平成不況下のマネーサプライ問題に関心がある。グロ-バリズム下のデフレ現象、BIS規制の影響などを説明。HHさんは、日本人の宗教姿勢、伝統文化教育、ポップソングを通してのカルチュラルスタディなどに関心。日本人の宗教性の浅薄さ、現代人のココロのもろさなどを話す。浜崎あゆみは分からないが、中島みゆきの歌の分析は面白かろうとも。手持ちのCDを社会研究室にプレゼントすることにする。HQさんは、日本の教育問題。高等教育と外国語教育に関心。単一言語民族で平板・単純な発音の日本語を使う国民を相手にした外国語教育のまずさ、基礎的には日本の外交自体の欠陥を指摘。変わりつつある日本の大学のあり方をテーマにすることの可能性も話す。ZSさんは日本的経営。労働者の効率的な搾取方法を研究するのでは主旨に反するだろうから、人間らしい生き方が労働の場で可能かどうかという観点からのアプローチを勧める。

終わってから、皆で徒歩、外大西裏の天外天へ。社会コース全員12人とわれわれの15人が1卓を囲んで楽しく会食。同じチェーンでも双楡樹店とはメニューが違って、ピラミッド型のバラ肉料理は無かった。3年生の訪日体験話、料理の話など、皆、達者な日本語の使い手だ。日本では定番のデザート、杏仁豆腐は、ここには無い。1・2年生は知らないし、3年の皆さんは日本に行って初めて食べたという。香港系のデザートなのか？

食後、元はまたセンターでパソコン指南。

12/31(水)

恵子たちが双楡樹早市に買出し。年賀メールの原稿を作る。

成都包子・餃子で朝食。昨日の新聞のトップは腐敗幹部に死刑判決。安徽省副知事だったWang Huaizhongは、517万円の賄賂を取り、480万円の不法蓄財をしたかどで裁判に掛けられたが、有り金残らず使って検察官の買収を図ったという。安徽省人民代表会議副議長のLu Xianningも同様に裁判中。62万ドルの賄賂、58万ドルの不法蓄財で死刑という判決をどう見るかは立場によるだろう。日本的には考えられないことだが、このくらいの厳罰が必要なほど、腐敗は蔓延していると言うことだ。今日の新聞の続報では、Wangが賄賂をとりながら派手なプロジェクトを立ち上げて上層部の評価を獲得して昇進したことを報じて、人民に役立つのではなく上層部を喜ばせる行為をした人物が評価されるシステムが問題としている。有効なチェックができなければ、彼が最後の人物ということにはならないだろうと書いている。

トヨタ、フォルクスワーゲン、GMが自動車ローンに進出する。中国銀行監督委員会が申請を許可したので、来年後半から業務を開始すること。従来も商業銀行の自動車ローン制度はあったが、公用車が多いこともあって利用率は20%以下と低かった。大手自動車企業のローン進出で、モータリゼーションはさらに加速することだろう。

今日の新聞のトップは、国家発展改良委員会が重点技術発展部門のリストを発表した記事。農業関連を含んでエネルギー、バイオ、情報、交通などの技術発展に力点が置かれる。台湾の陳総統に自重をうながした日本政府の姿勢を評価する記事も一面。国内記事では、南水北通の中央水路の北部、北京・石家荘間が着工したこと、日本の援助で山西省の女性再教育が行われ雇用が増えたこと、SARS患者発生で中国株式市場が失速したことなど。

昼食後、バスで国家図書館にでかける。正面から左手に回ったところが入口で、入館は手続き不用。2階に検索端末とカードボックス、貸出窓口がある。ジャンルごとに公開配架された部屋があるので、中央貸出口は空いている。正面奥の展示室で、法帖と敦煌文書を見る。宋代から民国期までの拓本帖がケースに並んでいる。有名書家の所蔵品が図書館に入っているようだ。梁啓超の旧蔵本もある。点数は多くないが、見ごたえがある展示だった。大晦日だが、図書室には沢山の人が来ている。蔵書内容を検索したいと思ったが、入

力できないので諦める。1階には書店があって新刊書やCD類を売っている。
バスで帰宅。風もない穏やかな年越しだ。
紅白歌合戦を見ながら年越しそば。元は、守屋先生の年越しパーティに。